

1 ●[文24]絶対値付き関数の合成関数 $g(x)$. $g(x)=c$ ($0 < c < 1$)の解法[2001 数学 I Ⅱ A B (文理)24]

関数 $f(x) = -|2x-1|+1$ ($0 \leq x \leq 1$) を用いて、関数 $g(x) = -|2f(x)-1|+1$ ($0 \leq x \leq 1$) を考える. $0 < c < 1$ のとき、 $g(x) = c$ を満たす x を求めよ.

解説

$$g(x) = -|2|-|2x-1|+1 = -|2|-|2x-1|+1$$

$$= -|2|-|2x-1|+1$$

$$0 \leq x \leq \frac{1}{2} \text{ のとき } g(x) = -|-4x+2-1|+1 = -|4x-1|+1$$

$$\text{ゆえに } 0 \leq x \leq \frac{1}{4} \text{ のとき } g(x) = 4x$$

$$\frac{1}{4} < x \leq \frac{1}{2} \text{ のとき } g(x) = -4x+2$$

$$\frac{1}{2} < x \leq 1 \text{ のとき } g(x) = -|4x-2-1|+1 = -|4x-3|+1$$

$$\text{ゆえに } \frac{1}{2} < x \leq \frac{3}{4} \text{ のとき } g(x) = 4x-2$$

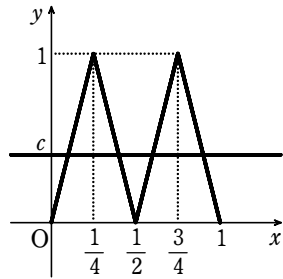
$$\frac{3}{4} < x \leq 1 \text{ のとき } g(x) = -4x+4$$

以上から

$y = g(x)$ のグラフは右図のようになる.

$0 < c < 1$ であるから、右のグラフより $g(x) = c$ を満たす x は

$$x = \frac{c}{4}, \frac{2-c}{4}, \frac{2+c}{4}, \frac{4-c}{4}$$



2 ●[文179]3次曲線の接線が1本の証明. 正の傾きをもつ条件[2001 数学 I Ⅱ A B (文理)179]

a, b, c は定数とし、 $a > 0$ とする.

(1) 曲線 $y = -ax^3 + bx + c$ の接線で点 $(0, t)$ (t は実数) を通るものがただ1本存在することを示せ.

(2) (1)の接線が正の傾きをもつための t の値の範囲を求めよ.

解説

$$(1) y = -ax^3 + bx + c \text{ から } y' = -3ax^2 + b$$

よって、接点の座標を $(p, -ap^3 + bp + c)$ とすると、接線の方程式は

$$y - (-ap^3 + bp + c) = (-3ap^2 + b)(x - p)$$

$$\text{すなわち } y = (-3ap^2 + b)x + 2ap^3 + c \dots\dots ①$$

$$\text{直線 } ① \text{ が点 } (0, t) \text{ を通るから } 2ap^3 + c = t$$

$$a > 0 \text{ から } p^3 = \frac{t-c}{2a} \quad \text{ゆえに } p = \sqrt[3]{\frac{t-c}{2a}}$$

よって、接点がただ1つであるから、点 $(0, t)$ を通る接線はただ1本存在する.

$$(2) -3ap^2 + b > 0 \text{ とすると } 3ap^2 < b \dots\dots ②$$

ここで、 $a > 0, p^2 \geq 0$

よって、 $b \leq 0$ のとき ② を満たす p は存在しない.

ゆえに、接線の傾きが正となる t は存在しない.

$b > 0$ のとき ② から

$$-\sqrt{\frac{b}{3a}} < p < \sqrt{\frac{b}{3a}}$$

$$\text{ゆえに } -\frac{b}{3a} \sqrt{\frac{b}{3a}} < p^3 < \frac{b}{3a} \sqrt{\frac{b}{3a}}$$

よって、(1) から

$$-\frac{b}{3a} \sqrt{\frac{b}{3a}} < \frac{t-c}{2a} < \frac{b}{3a} \sqrt{\frac{b}{3a}}$$

$a > 0$ から

$$c - \frac{2}{3}b \sqrt{\frac{b}{3a}} < t < c + \frac{2}{3}b \sqrt{\frac{b}{3a}}$$

3 ●[文216]条件を満たす曲線の方程式.直線と接する条件[2001 数学I IIA B (文理)216]

a, b を正の定数とし, 平面ベクトル $\vec{OA}=(2a, a), \vec{OB}=(0, 2b)$ を考える. 線分 OB の中点を C とする. 直線 OA, OB 上にない平面上の点 P に対し, 点 P を通り, 直線 OB に平行な直線と直線 OA との交点を Q とし, 点 P を通り, 直線 OA に平行な直線と直線 OB との交点を R とすると, $\vec{OQ}=s\vec{OA}, \vec{OR}=t\vec{OB}$ と表される. ただし, s, t は実数である. 次のものを求めよ.

- k を正の定数とするとき, $t=(s-k)^2$ を満たす点 P のなす曲線 F の方程式
- 直線 AC が F と接するとき, k の値

解説

(1) $\vec{OQ}=s\vec{OA}, \vec{OR}=t\vec{OB}$ であり, かつ点 P は直線 OA, OB 上にないから

$$s \neq 0, t \neq 0$$

$$\text{また } \vec{OP}=s\vec{OA}+t\vec{OB}$$

よって, $\vec{OP}=(x, y)$ とおくと

$$(x, y)=s(2a, a)+t(0, 2b) \\ = (2as, as+2bt) \dots\dots ①$$

$$\text{よって } \begin{cases} s = \frac{x}{2a} \\ t = \frac{y-as}{2b} = \frac{2y-x}{4b} \end{cases}$$

$$t=(s-k)^2 \dots\dots ② \text{ から } \frac{2y-x}{4b} = \left(\frac{x}{2a} - k\right)^2$$

$$\text{ゆえに } y = 2b\left(\frac{x}{2a} - k\right)^2 + \frac{x}{2} \\ = \frac{b}{2a^2}x^2 + \frac{a-4bk}{2a}x + 2bk^2 \dots\dots ③$$

②で $s=0$ とすると $t=k^2$

$$\text{よって, ① から } (x, y) = (0, 2bk^2) \dots\dots ④$$

②で $t=0$ とすると $s=k$

$$\text{よって, ① から } (x, y) = (2ak, ak) \dots\dots ⑤$$

③, ④, ⑤ から, 曲線 F の方程式は

$$y = \frac{b}{2a^2}x^2 + \frac{a-4bk}{2a}x + 2bk^2$$

ただし, $(x, y) \neq (0, 2bk^2), (x, y) \neq (2ak, ak)$

$$(2) \text{ 直線 } AC \text{ の方程式は } y = \frac{a-b}{2a}x + b \dots\dots ⑥$$

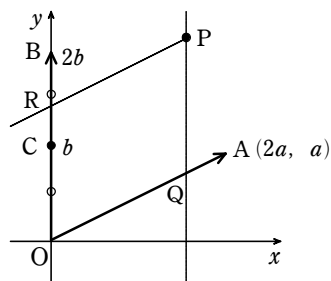
直線 AC と曲線 F が接するから, ③, ⑥ より

$$\frac{b}{2a^2}x^2 + \frac{a-4bk}{2a}x + 2bk^2 = \frac{a-b}{2a}x + b$$

$$\text{すなわち } x^2 - (4k-1)ax + 2a^2(2k^2-1) = 0$$

の判別式 D について $D=0$

$$\text{よって } (16k^2 - 8k + 1 - 16k^2 + 8)a^2 = 0$$



$$a \neq 0 \text{ であるから } k = \frac{9}{8}$$

4 ●[理216]2つの三角形の外心が一致するときの条件[2001 数学I IIA B (理)216]

$\triangle ABC$ の外心 (外接円の中心) O が三角形の内部にあるとし, α, β, γ は

$$\alpha\vec{OA} + \beta\vec{OB} + \gamma\vec{OC} = \vec{0}$$

を満たす正の数であるとする. また, 直線 OA, OB, OC がそれぞれ辺 BC, CA, AB と交わる点を A', B', C' とする.

- $\vec{OA}, \alpha, \beta, \gamma$ を用いて \vec{OA}' を表せ.
- $\triangle A'B'C'$ の外心が O に一致すれば $\alpha = \beta = \gamma$ であることを示せ.

解説

(1) $\alpha > 0$ かつ $\alpha\vec{OA} + \beta\vec{OB} + \gamma\vec{OC} = \vec{0}$ から

$$\vec{OA} = -\frac{\beta}{\alpha}\vec{OB} - \frac{\gamma}{\alpha}\vec{OC}$$

また, $\vec{OA}' = k\vec{OA} (k < 0)$ とおける.

$$\vec{OA}' = k\left(-\frac{\beta}{\alpha}\vec{OB} - \frac{\gamma}{\alpha}\vec{OC}\right)$$

$$\text{点 } A' \text{ は辺 } BC \text{ 上にあるから } -\frac{\beta}{\alpha}k - \frac{\gamma}{\alpha}k = 1$$

$$\text{よって } \frac{\beta+\gamma}{\alpha}k = -1$$

$$\beta+\gamma > 0 \text{ であるから } k = -\frac{\alpha}{\beta+\gamma}$$

$$\text{ゆえに } \vec{OA}' = -\frac{\alpha}{\beta+\gamma}\vec{OA}$$

(2) $\triangle ABC$ の外接円の半径を R とすると, (1) から

$$|\vec{OA}'| = \frac{\alpha}{\beta+\gamma}R$$

$$\text{同様にして } |\vec{OB}'| = \frac{\beta}{\gamma+\alpha}R, |\vec{OC}'| = \frac{\gamma}{\alpha+\beta}R$$

$$|\vec{OA}'| = |\vec{OB}'| = |\vec{OC}'| \text{ から } \frac{\alpha}{\beta+\gamma} = \frac{\beta}{\gamma+\alpha} = \frac{\gamma}{\alpha+\beta}$$

この式の値を p とおくと

$$\alpha = p(\beta+\gamma), \beta = p(\gamma+\alpha), \gamma = p(\alpha+\beta)$$

$$\text{辺々を加えると } \alpha + \beta + \gamma = 2p(\alpha + \beta + \gamma)$$

$$\text{よって } (2p-1)(\alpha + \beta + \gamma) = 0$$

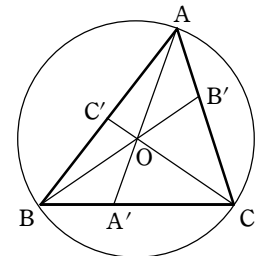
$$\alpha + \beta + \gamma > 0 \text{ から } p = \frac{1}{2}$$

$$\text{ゆえに } \alpha = \frac{\beta+\gamma}{2} \dots\dots ①, \beta = \frac{\gamma+\alpha}{2} \dots\dots ②, \gamma = \frac{\alpha+\beta}{2} \dots\dots ③$$

$$\text{①-② から } \alpha - \beta = \frac{\beta - \alpha}{2}$$

$$\text{よって } \frac{3}{2}(\alpha - \beta) = 0 \text{ ゆえに } \alpha = \beta$$

$$\text{これと ③ から } \alpha = \beta = \gamma$$



名古屋大学 2001年度入試問題

5 ●[理234]有限複素数列と1の6乗根との関係. とり方の個数[2001 数学 I II A B (理)234]

n を 3 以上の自然数とする. 有限複素数列 z_1, z_2, \dots, z_n の各項はいずれも方程式 $z^6=1$ の解の 1 つであり, かつ, 関係式 $z_1+z_2+\dots+z_n=0$ を満たしているとする.

(1) z_1, z_2, \dots, z_n の中に 1 が含まれ, -1 が含まれていないとすれば,

$$-\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i, -\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i \text{ はいずれも } z_1, z_2, \dots, z_n \text{ の中に含まれることを示せ.}$$

(2) $n=6$ のとき, (1) のような複素数列 z_1, z_2, \dots, z_6 のとり方の個数を求めよ.

解説

(1) $z^6=1$ から $z = \cos(60^\circ \times k) + i\sin(60^\circ \times k)$ (ただし, $k=0, 1, 2, 3, 4, 5$) と表される.

$k=0, 1, 2, 3, 4, 5$ に対して

$$z=1, \frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i, -\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i, -1, -\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i, \frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i$$

z_1, z_2, \dots, z_n の中に

1 が p 個, $\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i$ が q 個, $-\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i$ が r 個, $-\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i$ が s 個,

$\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i$ が t 個含まれるとすると, $z_1+z_2+\dots+z_n=0$ から

$$p + \left(\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i\right)q + \left(-\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i\right)r + \left(-\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i\right)s + \left(\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i\right)t = 0$$

すなわち $p + \frac{1}{2}q - \frac{1}{2}r - \frac{1}{2}s + \frac{1}{2}t + \frac{\sqrt{3}}{2}(q+r-s-t)i = 0$

p, q, r, s, t は実数であるから

$$\begin{cases} p + \frac{1}{2}q - \frac{1}{2}r - \frac{1}{2}s + \frac{1}{2}t = 0 \dots\dots ① \\ q+r-s-t=0 \dots\dots ② \end{cases}$$

① から $r+s=2p+q+t \dots\dots ③$

② から $r-s=t-q \dots\dots ④$

③, ④ から $r=p+t, s=p+q$

$p \geq 1, q \geq 0, t \geq 0$ から $r \geq 1, s \geq 1$

よって, $-\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i, -\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i$ はいずれも必ず含まれている.

(2) $n=6$ と (1) から

$$\begin{cases} p+q+r+s+t=6 \\ r=p+t \\ s=p+q \end{cases}$$

ゆえに $p+q+p+t+p+q+t=6$

よって $3p+2q+2t=6 \dots\dots ⑤$

$p \geq 1, q \geq 0, t \geq 0$ であり, かつ p, q, t は整数であるから, ⑤ を満たす p, q, t の

組は $(p, q, t) = (2, 0, 0)$

ゆえに $(p, q, r, s, t) = (2, 0, 2, 2, 0)$

よって, 求める複素数列のとり方の個数は

$$\frac{6!}{2!2!2!} = 90$$

6 ○[文255]16秒でサイレンの信号. 2種類のサイレンの鳴らし方[2001 数学 I II A B (文理)255]

サイレンを断続的に鳴らして 16 秒の信号を作る. ただし, サイレンは 1 秒または 2 秒鳴り続けて 1 秒休み, これを繰り返す. また, 信号はサイレンの音で始まり, サイレンの音で終わるものとする.

(1) 1 秒または 2 秒鳴り続ける回数をそれぞれ m 回, n 回とするとき, m, n の満たす関係式を求めよ.

(2) 信号は何通りできるか.

解説

(1) $m+2n+(m+n-1)=16$ から $2m+3n=17$

(2) m, n は負でない整数であるから $(m, n) = (1, 5), (4, 3), (7, 1)$

よって ${}_6C_1 + {}_7C_4 + {}_8C_7 = {}_6C_1 + {}_7C_3 + {}_8C_1 = 6 + \frac{7 \cdot 6 \cdot 5}{3 \cdot 2 \cdot 1} + 8 = 49$ (通り)

7 ● [理286] 数直線上の動点の座標の期待値 [2001 数学ⅠⅡAB (理)286]

数直線上の原点 O から出発して、硬貨を投げながら駒を整数点上に動かすゲームを考える。毎回硬貨を投げて表が出れば $+1$ 、裏が出れば -1 、それぞれ駒を進めるとする。

ただし、点 -1 または点 3 に着いたときは以後そこに止まるものとする。

- (1) k 回目に硬貨を投げた後、駒が点 1 にある確率を求めよ。
- (2) k 回目に硬貨を投げた後、駒がある点 X_k の期待値 $E(X_k)$ を求めよ。

解説

(1) n 回目に硬貨を投げた後、駒が点 X_n にいる確率を $P_n(X_n)$ とすると

$$P_{k+1}(1) = \frac{1}{2}P_k(2) + \frac{1}{2}P_k(0) \dots\dots ①$$

$$P_{k+1}(2) = \frac{1}{2}P_k(1) \dots\dots ②$$

$$P_{k+1}(0) = \frac{1}{2}P_k(1) \dots\dots ③$$

①, ②, ③ から $P_{k+2}(1) = \frac{1}{2}P_k(1)$

よって、 m を 1 以上の整数とすると

$$k=2m \text{ のとき } P_k(1) = P_{2m}(1) = \left(\frac{1}{2}\right)^m P_0(1) = 0$$

$$k=2m-1 \text{ のとき } P_k(1) = P_{2m-1}(1) = \left(\frac{1}{2}\right)^{m-1} P_1(1) = \left(\frac{1}{2}\right)^m = \left(\frac{1}{2}\right)^{\frac{k+1}{2}}$$

(2) $X_k = -1$ について

$k=1$ のとき 裏 が出る。

$k=3$ のとき 表裏裏 の順に出る。

$k \geq 5$ ($k=2m-1$) のとき

まず、 1 回目に表が出る。

$2, 3$ 回目に表が 1 回、裏が 1 回ずつ出る。

以後、同様にして、 $2m-4, 2m-3$ 回目にも表が 1 回、裏が 1 回ずつ出る。

更に、 $2m-2$ 回目と $2m-1$ 回目には裏が出る。

よって、 $k=2m-1$ のとき

$$\begin{aligned} P_k(-1) &= \frac{1}{2} + \frac{1}{2}\left(\frac{1}{2}\right)^2 + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2}\left(\frac{1}{2}\right)^2 + \frac{1}{2}\left(\frac{1}{2}\right)^2\left(\frac{1}{2}\right)^2 + \dots\dots + \frac{1}{2}\left(\frac{1}{2}\right)^{m-2}\left(\frac{1}{2}\right)^2 \\ &= \frac{1}{2} + \frac{1}{8}\left\{1 + \frac{1}{2} + \dots\dots + \left(\frac{1}{2}\right)^{m-2}\right\} \\ &= \frac{1}{2} + \frac{1}{8} \cdot \frac{1 - \left(\frac{1}{2}\right)^{m-1}}{1 - \frac{1}{2}} \\ &= \frac{3}{4} - \left(\frac{1}{2}\right)^{m+1} \end{aligned}$$

$$k=2m \text{ のとき } P_k(-1) = P_{2m-1}(-1) \cdot 1 = P_{2m-1}(-1)$$

$X_k = 3$ について

$X_k = -1$ のときと同様に考える。

$k=2m-1$ のとき

$$P_k(3) = \frac{1}{2}\left(\frac{1}{2}\right)^2 + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2}\left(\frac{1}{2}\right)^2 + \dots\dots + \frac{1}{2}\left(\frac{1}{2}\right)^{m-2}\left(\frac{1}{2}\right)^2 = P_k(-1) - \frac{1}{2} = \frac{1}{4} - \left(\frac{1}{2}\right)^{m+1}$$

$k=2m$ のとき

$$P_k(3) = P_{2m-1}(3) \cdot 1 = P_{2m-1}(3)$$

また、(1) の結果と ②, ③ から

$$k=2m-1 \text{ のとき } P_k(2) = P_k(0) = 0$$

$$k=2m \text{ のとき } P_k(2) = P_k(0) = \left(\frac{1}{2}\right)^{m+1}$$

以上から

$k=2m-1$ のとき

$$E(X_k) = -1 \times \left\{\frac{3}{4} - \left(\frac{1}{2}\right)^{m+1}\right\} + 1 \times \left(\frac{1}{2}\right)^m + 3\left\{\frac{1}{4} - \left(\frac{1}{2}\right)^{m+1}\right\} = 0$$

$k=2m$ のとき

$$E(X_k) = -1 \times \left\{\frac{3}{4} - \left(\frac{1}{2}\right)^{m+1}\right\} + 2 \times \left(\frac{1}{2}\right)^{m+1} + 3\left\{\frac{1}{4} - \left(\frac{1}{2}\right)^{m+1}\right\} = 0$$

別解 (2) 表が出て $+1$ だけ動いたときの増加量を $+1$ 、裏が出て -1 だけ動いたときの増加量を -1 とする。

n 回目に硬貨を投げたときの増加量を Y_n とする。

点 $0, 1, 2$ から移動するときの増加量の期待値を E_1 、点 $-1, 3$ から移動するときの増加量の期待値を E_2 とすると

$$E_1 = 1 \times \frac{1}{2} + (-1) \times \frac{1}{2} = 0, E_2 = 0$$

ゆえに $E(Y_n) = 0$

$$\begin{aligned} \text{よって } E(X_k) &= E(Y_1 + Y_2 + \dots\dots + Y_k) \\ &= E(Y_1) + E(Y_2) + \dots\dots + E(Y_k) \\ &= 0 \end{aligned}$$

8 ○ [3C111] 対数不等式の証明. 平均値の定理利用 [2001 数学Ⅲ C 111]

e を自然対数の底とする。 $e \leq p < q$ のとき、不等式

$$\log(\log q) - \log(\log p) < \frac{q-p}{e}$$

が成り立つことを証明せよ。

解説

$$f(x) = \log(\log x) \text{ とおくと } f'(x) = \frac{1}{x \log x}$$

区間 $p \leq x \leq q$ において、平均値の定理により、

$$\log(\log q) - \log(\log p) = (q-p) \times \frac{1}{c \log c} \text{ となる } c \text{ が } p < c < q \text{ の範囲に少なくとも}$$

1 つ存在する。

ここで、 $e \leq p < c$ から $e < c < c \log c$

$$\text{ゆえに } \frac{1}{c \log c} < \frac{1}{e}$$

$$\text{よって、 } p < q \text{ から } \log(\log q) - \log(\log p) < \frac{q-p}{e}$$

名古屋大学 2001年度入試問題

[9] ●行列で表された数列の漸化式. 整数 p, q の決定[2001]

ある正の整数 p, q に対し,

$$\begin{pmatrix} a_{n+2} \\ a_{n+1} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} p+2 & -2p \\ -2q & q+2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a_{n+1} \\ a_n \end{pmatrix} \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

を満たす正の数の数列 $\{a_n\}$ が存在するものとする. このとき, p, q の値を求めよ.

解説

条件から
$$\begin{cases} a_{n+2} = (p+2)a_{n+1} - 2pa_n & \dots\dots ① \\ a_{n+1} = -2qa_{n+1} + (q+2)a_n & \dots\dots ② \end{cases}$$

② から $(2q+1)a_{n+1} = (q+2)a_n$

$q > 0$ であるから $a_{n+1} = \frac{q+2}{2q+1} a_n$

よって, 数列 $\{a_n\}$ は, 公比 $\frac{q+2}{2q+1}$ の等比数列である.

数列 $\{a_n\}$ の初項を a (ただし, $a > 0$) とし, $r = \frac{q+2}{2q+1}$ とおくと $a_n = ar^{n-1}$

これが ① を満たすから $ar^{n+1} = (p+2)ar^n - 2par^{n-1}$

$ar^{n-1} > 0$ であるから $r^2 = (p+2)r - 2p$

ゆえに $(r-2)(r-p) = 0$ よって $r = 2, p$

$r = 2$ のとき $\frac{q+2}{2q+1} = 2$ ゆえに $q+2 = 2(2q+1)$

これを解くと, $q = 0$ となり不適.

$r = p$ のとき $\frac{q+2}{2q+1} = p$ ゆえに $q+2 = p(2q+1)$

整理すると $2pq + p - q = 2$

すなわち $4pq + 2p - 2q = 4$

変形して $(2p-1)(2q+1) = 3$

p, q は正の整数であるから, $2p-1, 2q+1$ も正の整数である.

また $2p-1 \geq 1, 2q+1 \geq 3$

よって $2p-1 = 1, 2q+1 = 3$

したがって $p = 1, q = 1$

[10] ○絶対値付き関数の定積分で表された関数の最大, 最小[2001]

閉区間 $[0, 2\pi]$ で定義された x の関数 $f(x) = \int_0^\pi \sin\left(|t-x| + \frac{\pi}{4}\right) dt$ の最大値および最小値とそのときの x の値をそれぞれ求めよ.

解説

[1] $0 \leq x \leq \pi$ のとき

$$\begin{aligned} f(x) &= \int_0^x \sin\left\{-\left(t-x\right) + \frac{\pi}{4}\right\} dt + \int_x^\pi \sin\left\{\left(t-x\right) + \frac{\pi}{4}\right\} dt \\ &= \left[\cos\left(-t+x+\frac{\pi}{4}\right)\right]_0^x + \left[-\cos\left(t-x+\frac{\pi}{4}\right)\right]_x^\pi \\ &= \sqrt{2} - \left\{\cos\left(x+\frac{\pi}{4}\right) + \cos\left(\frac{5}{4}\pi-x\right)\right\} \\ &= \sqrt{2} - 2\cos\frac{3}{4}\pi \cos\left(x-\frac{\pi}{2}\right) = \sqrt{2} + \sqrt{2} \sin x \end{aligned}$$

ゆえに, $x = \frac{\pi}{2}$ のとき最大値 $2\sqrt{2}$; $x = 0, \pi$ のとき最小値 $\sqrt{2}$

[2] $\pi \leq x \leq 2\pi$ のとき

$$\begin{aligned} f(x) &= \int_0^\pi \sin\left\{-\left(t-x\right) + \frac{\pi}{4}\right\} dt \\ &= \left[\cos\left(-t+x+\frac{\pi}{4}\right)\right]_0^\pi \\ &= \cos\left(x-\frac{3}{4}\pi\right) - \cos\left(x+\frac{\pi}{4}\right) \\ &= -2\sin\left(x-\frac{\pi}{4}\right)\sin\left(-\frac{\pi}{2}\right) = 2\sin\left(x-\frac{\pi}{4}\right) \end{aligned}$$

ゆえに, $x = \pi$ のとき最大値 $\sqrt{2}$, $x = \frac{7}{4}\pi$ のとき最小値 -2

[1], [2] から, $x = \frac{\pi}{2}$ のとき最大値 $2\sqrt{2}$, $x = \frac{7}{4}\pi$ のとき最小値 -2